

---

# BAND物語

五十嵐もさお

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

BAND物語

### 【著者名】

五十嵐もやお

### 【あらすじ】

退屈な毎日、繰り返される日常。逃れようとしても逃れられない。ある日、転校生がやってきて、日常が変わった。まあ、よくある展開ですが読んでみて下さい。

## 第1話～転校生～

誰もが思つ。特に思春期の子供は、満たされない日々や退屈の続く日々。

これは、あるひとりの、いや、1組の物語…………

????『あ～、学校ってなんてダルいんだろ～…………』

彼は…………

島根県立総山中学校 2年1組 萩原 春樹 14才

趣味：歌うこと（衝天！キヤンダム、ナルカンゾのテーマ etc …）

（）つまづけ狙い。

特技：おもしろい事をすること

将来の夢：特になし

この物語の主人公…………

彼も退屈な毎日にしつこびつしていた。

ガラガラッ ……

担任『じゃあ、ホームルームやるべ～。席につけ～。』

（起立、礼、着席！！）

ガタガタッ ……

また退屈な日がやってきた。あの、担任のことを聞くひとつもそういう思つ。

担任『出席とるぞ…………』

担任が話をしているがおれはいつもほとんど聞いていない。

担任『え～、突然だが今日は転校生が来る。じゃあ、入れ。』

荻原『ふ～ん……転校生か……まつ、どうでもいいや。』

転校生などどうでもいい…………。

? ? 『 こんちにわ . . . 。』

荻原（なんか . . . 、えらい静かなやつが来たな . . . ）  
顔を伏せながらも一応聞いていた。

担任『えー、東京から来た道家秋正君だ。』

道家『どうも . . . 。』

担任『ん~、じゃあ、席は . . . 、荻原の後ろにスペースがあるか  
ら、ホームルーム終わったらそこに机をもつてくるぞ。』

荻原（おれの後ろか . . . 、なんか話とかせんといけんよなあ . . .  
。メンドクサツ！ ！ ）

ホームルーム後 . . . 。

ガタガタッ . . .

転校生が机を運んで来た。

荻原（まあ、あいさつだけでもしどとくか . . . 。）

荻原『はじめまして。おれ荻原つていうんだけど、前後の席同士仲  
良くやろうな。』

道家『うん。よろしく . . . 。』

荻原（ . . . . . . . . . . . . 絡みづらい . . . . . . . . ）

おれも喋るの苦手な方だし、相手も無口だし、話があわっちゃった  
し . . . 。

ドタドタ！ ！

女子A『道家くんってさあ！ 東京からきたんだよね？』

道家『うん。まあ、生まれは岐阜なんだけど。』

どこからともなく女子がやってきた。道家はカツコイイ転校生キャラ  
ラらしい。（多分）

女子B『はいっ！ 道家くんて部活動に入らないの？』

道家『多分、入ると思う。』

女子C『なにに？？』

道家『うーん。バスケかサッカーかなあ . . . 。』

女子A 『へえ～、カッコイイ……じゃあ、見に行くな！』  
ふ～ん、バスケかサッカーか……おれはバスケ部だし誘つてみ  
ようかな……まあ、補欠なんだけどw

女子B 『じゃあさ、趣味は……』

ガラガラッ

先生『席に付け！授業だぞ！』

荻原（おれ、まだ、あいさつしかしてねえ……。）

これが道家とはじめてあつた日だった。こんな、平穩な暮らしもあ  
つたんだなあ（回想）

まあ、今はとても多忙な毎日をおくつてるんですが、これがその始  
りなのです……。

第2話に続く……to be なんぢやうかんぢやう……

## 第2話「よくある放課後」

放課後 . . .

荻原（結局、ずっと女子の話攻めになすすべなく黙つてたら、放課後になつてしまつた . . . でも、今度こそバスケ部に誘つてみよう！それぐらいしか話題ないし）

荻原『あのさ、道家君バスケ部見学に来ない？』

道家『ん？ああ . . . じゃあ、行つてみよつかな。』

荻原『分かつた！じゃあ、行こう！…』

結構がんばつて明るくふるまつたぞ！…

体育館 . . .

キュツキユツ

バスケ部の何人かが先にきて練習していた。

荻原『おいっす！…』

？？『おお、荻原か！…隣にいるのは . . . 分かつた！…今日來た転校生か！？』

道家『道家秋正です。よろしく。』

？？『なんか、堅いなあ。タメなんだし、タメ口でいこうぜ！…あれは佐藤八陸だ！…よろ！…！…！つてか、バスケ部に興味があるん？』

道家『バスケ部か、サッカーチームに入ろうかと思つてんだけど . . .

』

佐藤『サッカーなんてたまけりだろ？バスケ部はいれつて！…』  
えらそうにしてるけど、こいつは『ピボツ』っていうバスケマン  
ガに影響されてバスケ部に入った輩のひとりです。ちなみに荻原もW  
荻原『まあ、今決めなくてもいいだろ。まあ、部員が来る前に試合  
してみない？ここにいるやつらで！…』

佐藤『良いねえ！…よし、ようう！…』

そこにいる全員がやる気があつたので、バスケをする事になった。

ちょうど8人なので4対4でやる事になった。

ちなみに、ジャンケンの結果Aチームはオレと道家君がいて、Bチ

ームには佐藤がいた。

キュキュ . . .

ダムダム . . .

シユツ . . . . サツ . . . .

佐藤『道家！上手すぎやろ！…』

荻原『ああ、やばいな』

結果は道化のワンマンショーに近かつた。道化はバスケは超人的に上手かつた。

道家『ふう . . . 。』

バシッ

佐藤は思いつきり道家の肩をたたいた

佐藤『お前。スッゲーバスケ上手いのな！これは即レギュラー決定だな！！』

荻原『たしかに、即レギュラーでもおかしくない上手さだな。バスケ部に絶対入った方がいいと思う！』

道家『うーん。じゃあ、そうじょうかな . . . 。あつ、でも今日は用があるから帰らないと . . . 。』

荻原『分かった。じゃあ、また明日！…』

道家『うん。』

道家はかなりバスケが上手かつた。これでおれのレギュラーはまた遠ざかつた。まあ、別にレギュラーになりたいってわけじゃないんだけどわあれ、今日オレ目立つて無いなあ . . . まあ、次は目立つだらう…多分わ（楽天家）

第一話へ続く...と思ひます

### 第3話～「この日を忘れない」

道家『「めん・・・。今日も用事があるから・・・。  
これで4日目・・・。

荻原『分かった。まあ、用事があるなら仕方ないな。』

バスケの試合（道家ワンマンショー）から4日目道家はいまだにバスケ部に入つて無い。

尾行開始！！

いたいな・・・。おれ・・・。

でも・・・、バスケをしていた時もおもしろそうな顔はしてなかつたし、なんか訳があるんじゃないかと思つた。おれは人の心の闇みたいなのに興味がある。それは、ひどい癖だとは分かつてゐるがそれが知りたい。

ん??

誰かと話してゐるな・・・。でも、もっと近付かないと聞こえない・。

道家『だれ??』

しまつたああああああああ――  
・・・・

やべっ！完璧に変態じゃん！！！もう変態キャラじゃん！！！  
！！！学校での無難な毎日があー・・・

道家『荻原君か？』

荻原『ああー、たまたま、なんか腹痛的ななんかで・・・、あつ、  
ヤベツ！..なんかひどくなつてきた・・・』

荻原（無難な日々終了）。）

？？『お前が4日も休んだから、気になつてついて来たんだろう？つ  
たく、毎日おれんとこに来てただる・・・。学校にも良い友達がい  
るじやねーか！』

隣でしゃべつてた人が適格な事をいつた。

道家『そうか・・・。ありがとう。でも、学校より楽しい事があつ  
たから。』

荻原『へつ？学校より楽しい事？？』

道家『まあ、こいの「DA-KING」つていう人がバ・・・』

DA-KINGを省略してD-Kにします。『了承下さい。m(ー

ー)m

D-k『ん？あつ！ヤベツ！時間がねえ！..まあ、これはチケッ  
トだから2人で見にこいよ！学生には、優しいから、今回はただで  
！..じやあ、また！..！..』

ペュー

。。。風のように行つて行つた。

荻原『さつきの人はDA-KINGつていつてたけど』

道家『ああ、おれの親戚の人なんだけど、まあ、このチケットも余  
り物なんだけど・・・』

荻原『なんのチケットなん？』

道家『ん？ん？、じやあ、サプライズつて事でその時まで秘密にし  
とく。』

サプライズつて……何??

道家『このチケットのイベントまで時間があるし。少し、河原で暇潰ししない?』

荻原『えつ、ああ……。』

なんかおれにだけなにも情報入ってきてない……。

河原 . . .

河原についた途端に道家がしゃべりはじめた。

道家『荻原君つて、学校楽しい?』

いきなり真剣な話を仕始めた。

荻原『うーん、部活動はそれなりに楽しいし、友達と過ごす時間も楽しいけど、勉強は意味が分からん。とくに道徳とか答えがあつたりするから意味が分からん。先生が道徳の教員本になんかここはこういう答えみたいなのがあつて、それ見て、うわ~ . . . 。みたいな?』

道家『. . . ははっ。』

少し驚いたあと、はじめて道家が笑ったトコを見た。

荻原『バスケの試合したときもなんか楽しそうじゃなかつたつていうか、心こになしつていうか。そんな感じだつたけど、学校についてどう思つてんの?』

道家『学校なんてぶっちゃけつまらんし。ほんとは、バスケよりしたい事があるんだ! . . . 』

荻原『したいこと?』

道家『ああ、ずっとここ最近さつきのDA-KINGさんの家にいたんだ! そこで、まあ、このチケットにもあるよつとあつちは忙しかつたんだけどおれが勝手に . . . ん?』

道家が目を見開いてる。

道家『やばい! 時間を1時間くらい間違えてた! 走らないと間に合わない! . . . 』

荻原『ええっ？』

道家『急ごう！！』

そういうと全速力で目的地に向かつた。

開始10分前 . . .

D - K 『あいつ、20分前にはくるとおもってたんだけど、来て無いなあ。』

? ? 『おーい！あなたは遅刻したんだからてきぱき準備しちやつてよー！もう10分前なんだし！！ああ、今日は業界の人がくるのに . 。ちゃんと前座をちゃんとやつちゃつてね！－』

D - K 『ういーす。（うるさいオチャンだな。にしても遅いな . . 何してんだ？）』

その頃 . . .

道家『急げー！！』

荻原『はやつ！！』

さすがスーパーバスケをみしてくれたことがある。ずば抜けた体力だ！1kmをフルスロットルで走る！

道家『もうすぐだから！－がんばれ！－』

荻原『オッケー！ . . .』

かれこれ2kmにならひとつひとつひどついた。

荻原『はあはあつ、い . . . い . . . か？』

道家『うん。はあつ、間に合つたっぽいね。まあ、20分前にきて

DA - KINGさんに本番前に会いたかったんだけど。まあ、入ろう

うー。』

そこは、古い駅前の店だつた。あれ？ここって何の店だつける？この付近はあんまり分からなかつた。

道家『ちゅうじ始めたところじこね。』

荻原『えつ、そつなん?』

ガガツ、ピー・・・

『例えば、どこかで戦争が起きてもワクワクする自分がいて、そんな自分が大嫌いで、何をしていいか分からなくなったら今日という日を思い出して下さい。じゃあ、やるぜ……全身全霊を込めて!!』

耳に入ってきたDA・KINGたちのあの言葉をおれは一生忘れないと思つ・・・。

第3話へ続けい!!

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6718a/>

---

BAND物語

2010年12月5日00時37分発行